

附属学校の評価について

副校長 米津理臣

令和元年7月8日に発行された「附属だより 第113号（全国国立大学附属学校連盟・全国国立大学附属学校PTA連合会）」の中で、文部科学省総合教育局教育人材政策課教員養成企画室の高田行紀室長が、次のように述べております。

「附属学校の評価は公立学校のそれとは大きく異なります。設置目的である①大学・学部の教育研究に協力、②教育実習の実施、③モデル校としての役割を果たしつつ、教員の養成・研修と新しい教育の研究開発にどれだけ貢献しているかが重要です。」

現在、本校は、①について、大学と連携して、共同研究の具体化に向けて動き出し、特に、新しい教育の研究開発を意識して、新たに教育研究を推進し始めたところです。

全国的には、これまでの附属学校の評価については、「学校の児童生徒に質の高い教育を提供していたか」「公開研究会を盛大に開催したか」という観点で評価をしていることが多いようです。しかし、本来は「学校外の児童生徒や教員、学生や院生にどのような好影響を与えたか」ということについて評価しなければいけません。

本校は、一昨年度から、教育研究大会のアンケート等を工夫して、上記の評価観点のような内容を具体的に見取れるように工夫してきたところです。

特に、「本校の研究実践を自校で実践したい、活用したい」「部分的に実践したい、活用したい」という声がほとんどで、具体的には、教育課程、学習評価、授業づくり、教材・教具を実践・活用したいというような内容となっています。

今後は、これまで行ってきた教育研究をベースとし、新しい学習指導要領で述べられていることを踏まえ、子供たちが学んだ一つ一つの知識がつながり、「わかった」「おもしろい」と思える授業や、周りの人たちと共に考え、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業などを工夫して、子供たちの資質・能力を育み「生きる力」を付けるための教育研究を進めていきたいと考えているところです。

特に、高田室長が述べている教員の養成・研修及び新しい教育の研究開発ということを意識して、新しい教育の具体的な指導方法（指導案）を提案していくような教育研究としていこうと、大学との共同研究とも併せて動き出したところです。

昨年の本項でも述べましたが、「本校が、教育研究を通して実践したことが、他校の授業改善等のためになっている（還元されている）」と評価されるように、今後も教育研究を推進していかなければいけないと再度確認しているところです。

ぜひ、本実践報告を一読いただき、御自身の授業改善等において部分的にでも活用していただいた際には、本校の誰でもよろしいですので、御一報いただければ幸いに存じます。

今後も、教育研究校、教育実習校、教育実践校としての果たすべき使命と役割を自覚し、多くの先生方から「附属小学校の研究や実践を自校の授業改善のために活用した」と言っていただけるよう、教育研究の推進と実践に努めてまいりますので、御指導と御支援、そして、御協力をお願いしたいと思います。